

北西太平洋における重要鯨類の年齢，性成熟及び系群の分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010213

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



北西太平洋における重要鯨類の年齢、性成熟及び系群の分析

遠洋水産研究所 外洋資源部 鯨類生態研究室

研究の背景・目的

大型鯨類の商業捕獲は国際捕鯨委員会（IWC）のモラトリアム決議によって現在休止状態にあるが、IWC対象外種（ツチクジラ、ゴンドウクジラ、イルカ類）については、我が国の一義的責任と自主管理のもとに、小型捕鯨業（大臣許可漁業）、いるか漁業（知事許可漁業）が全国各地で継続的に営まれています。本課題は、これらの対象種について、性成熟年齢等の種特有の生物特性を把握するとともに、mtDNA、形態分析等によって系群構造を解明し、資源の合理的管理に資することを目的としています。

研究成果

小型捕鯨業の主要対象種であるツチクジラについて、mtDNA塩基配列（ハプロタイプ）分析（360塩基、257個体）、外部形態プロポーシオン解析（14測定

部位、184個体）を行い、目視分布の情報などから示唆されていた系群構造仮説を生物学的に実証し、我が国沿岸に3群（太平洋系群、日本海系群、オホーツク海系群）が存在することを明らかにしました。また、小型捕鯨業、いるか漁業対象種でありながら生物学的知見の少なかったハナゴンドウについて歯牙による年齢査定法を確立し、性成熟年齢、性成熟体長等の推定値を得ました。

波及効果

ツチクジラで得られた成果は実際の漁業管理に反映され、海域（系群）及び水揚げ地ごとに新たな捕獲枠が設定されています。ハナゴンドウについては、生物学的な基礎知見が得られ、今後、資源動態のモニタリング、種の生物特性を加味した新たな資源管理モデルの開発等に向けて貢献が期待されます。



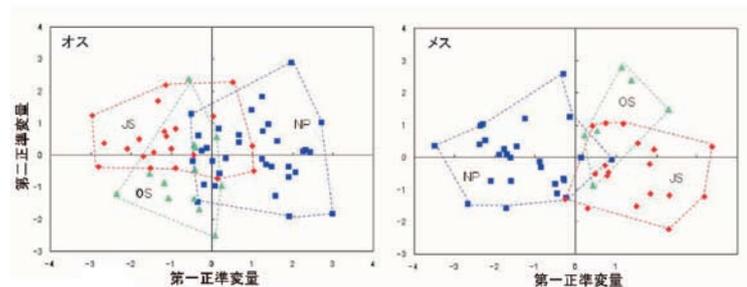
捕鯨基地に水揚げされたツチクジラ



17年度のツチクジラの漁場と年間捕獲枠

表. 海域ごとのハプロタイプの出現頻度.

海域	根拠地	ハプロタイプ							計
		a	b	c	d	e	f	g	
(OS)オホーツク海	網走	21	28	0	0	0	0	0	49
(JS)日本海	函館	1	47	0	0	0	0	0	48
(NP)太平洋	鮎川	22	46	8	1	2	1	0	80
	和田浦	17	49	7	3	2	1	1	80



正準判別分析による外部形態比較